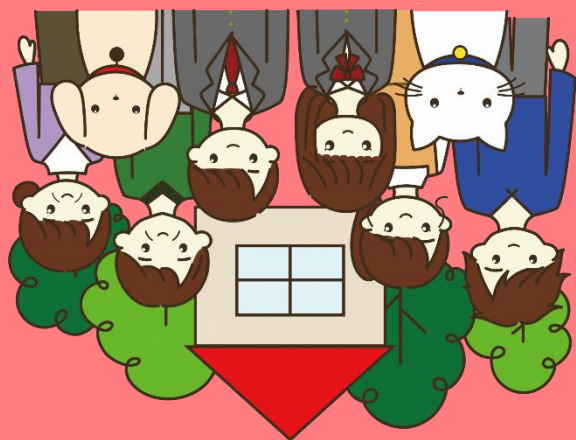


「互近助（ごきんじょ）」活動、してみませんか。
いざというときのために、
もっと安心してくらせる！
このまちが、きっともっとアキになる！

自治会のススメ！



自治会ってなんだ？

「自治会」ってよく聞けれど、実はイマイチよくわからない。
そんなあなたに、すぐわかる自治会のキホンです。



自治会 って？

同じ地域に暮らす人々が、地域の課題解決や災害時の
備え、住民同士の親睦をはかることを目的に結成された、
自主的な住民組織です。

もっと
詳しく！

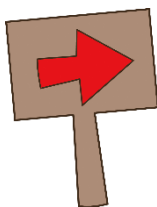
たとえば交通安全や防犯など、まちの「困ったな～」や「もっと
こうしてほしい!」の声を住民みんなの意見としてまとめて、行政
に届けることが自治会の大きな役割です。

また、顔の見えるお付き合いやいざという時の備えなども自治会の大事な
ポイント。災害時のご近所の助け合いは、すごく強いチカラになります。

「行政があれば自治会なんて要らないよね」と思うかもしれませんが、でも、
行政はまちを大きな視点でみています。だから、よりきめ細かく身近にまちを
良くするためには、地域と行政の連携が必要です。

自治会は、みんなが暮らしやすいまちづくりへの思いを形にする場。地域と
行政の重要なパイプ役なんです。

地域のつながりが、命をつなぐ



地震や豪雨などの自然災害は、いつどこで発生するかわかりません。
そんな大災害時、自治会を通した「地域のつながり」が、
助けになった!という声が各地で寄せられています。
ここでは、内閣府による被災者へのインタビューから集まった
エピソードを紹介します。

東日本大震災でのエピソード

震災の少し前に地域で防災訓練があり、非常用炊き出し袋を使った炊き出し方法な
ども学んでいました。また、私は地域の炊き出し班長になっており、使命感から、自宅
が地震でメチャメチャになりながらも、避難先の中学校で炊き出しをすること
にしました。1日目は避難所の分の炊き出しをし、2日目以降は多めに作って
自宅にいる人たちにも届けました。今回の炊き出しでは地域の特性や事前の
訓練がとても役に立ちました。でも、炊き出しのノウハウを知っているだけ
では作業はうまく進まなかったと思います。防災訓練など日ごろの活動を通じ、「この人だったらこういうことができるのではないかと、何となく
把握しておいたのはよかったかもしれません。地域の人たちに譲り合いや
助け合いの気持ちがあったことが一番の幸いだったと思います。（新地町 60代）



発行：城陽市役所 市民活動支援課
〒610-0195 城陽市寺田東ノロ 16 番地、17 番地
TEL:0774-56-4001
FAX:0774-54-7406
メール:shiminikatsudo@city.joyo.lg.jp
左の二次元コードからもメールできます。



自治会に関するご相談やお問合せは
お気軽に城陽市役所 市民活動支援課までどうぞ!
ぜひご近所の方にも聞いてみてくださいね。

西日本豪雨でのエピソード

被災直後、水が引くまでは自宅を確認することができませんでした。数日後、やっと
たどりついた自宅の悲惨な状況に、本当につくりと力尽き、何も考えられず、何かを
する気力も失ってしまいました。そんな時、近所の方が「しっかりしなくちゃ!」と叱っ
てくれたのです。そして、その方も被災していたのですが、そのご家族や、ママ友、東日
本大震災を経験した主人の同僚など、様々な方が暑いなか、ドロドロになった家の片
付けを丁寧に手伝ってくれました。誰かがいてくれるとやる気になる。手伝ってくれる
と頑張ることができました。本当に、人のつながりに助けられたなど、つながりって大
事だなと実感しました。（倉敷市 40代）

熊本地震でのエピソード

うちの町内には町内放送があります。前震の後、すぐに自治会長さんが「町内の皆
さん、ゆっくりでいいから公民館に来てください」と放送してくれたのです。いつもの
聞き慣れた声で放送が流れるのを聞いて、とても安心しました。「建物のない道路に出
てください」と聞こえたので出てみると、それまでザワザワしていた近所の方もおもむ
ろに建物のないところに集まってきて、声を掛け合いました。初めての大きな地震で、
どうしたらいいかわからなかったのも、近所の方にも声をかけていただいたりして、そ
ういうのはありがたかったですね。自治会とか近所づきあいとか、大事ななと思いま
した。（熊本市 40代）

「災害」って、 思ったより身近かもしれない

この写真は、平成24年の南部豪雨時、城陽市内で浸水があったときの様子です。

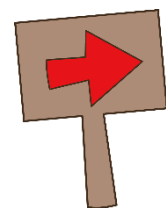


これまで自治会に入ったことのない方や、自治会活動を詳しく知らない方はあまりピンとこなかったり、近所付き合いは面倒そう…と思われるかもしれません。

でも、子どもやお年寄りの家族の見守りなど、ご近所を頼りにしなければならぬこともあるはず。「お互い様」と、助け合うこともできます。

突然の災害時、ひとりでは困難な状況に陥るかもしれません。日頃からの地域との繋がりをもつことは、災害時の備えとなります。

市と地域で、共に備える



城陽市内においても、豪雨で木津川が氾濫した場合、市の西側の大部分で洪水や浸水が想定されます。そんな事態が発生した場合に、迅速な避難行動ができるよう、令和4年には、市や校区の自主防災組織が中心となって、4小学校区合同で防災訓練を実施しました。

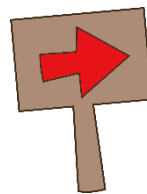


訓練では、段ボールベッドやテントの設営体験を実施。「初めての訓練参加で勉強になりました」や「良い経験ができた」という声がありました！

自治会・小学校区を超えた地域での訓練ということもあり、本番さながらの実践的な訓練となりました。



のぞいてみよう 自治会の現場



地域に根付いた自主的な組織、「自治会」はそれぞれ様々な活動をされています。

ここでは、防災にチカラをいれておられる市内の自治会さんを紹介！

いざ!という災害への備え

寺田校区のとある自治会では、大きな災害が発生した際に必要となる水や食糧、燃料などを、2020年9月から自治会集会所で備蓄されています。

石油ストーブやカセットコンロ、消毒用アルコール、マスク、トイレトーパー、水等を確保しておられ、食糧としてはレトルトカレーを自治会会員数分購入し、1年ごとに入れ替えされているそうです。

1年ごとに入れ替えた食糧は、夏祭り開催のときに各世帯に配っています！



自治会 よくある質問

自治会について、よくある質問をまとめています。詳しい活動については、ご近所さんにも聞いてみてくださいね。

自治会に
加入することのメリット
ってなんですか？

災害時など、いざという時の助け合いはもちろんですが、地域清掃や防犯灯の管理など、自治会のメリットは日頃から受けています。また、地域全体の意見として行政に要望を出し、地域づくりに反映させることもできます。

仕事で帰りが遅く、
自治会の活動に
参加できません…

自治会活動はみんなで協力し合って行っています。自治会によっては、「準会員制度」を設けておられたり、役員免除の相談を受けておられるところも。一度自治会の役員さんなどにご相談してみてくださいね。

自治会って、必ず
加入しないといけない
のですか？

加入は強制ではありませんが、防災・防犯や子どもの見守りなど、生活に密着した問題には、隣近所の助け合いが必要になります。災害等の非常時に対応できる体制づくりのためにも、皆さんの参加が必要です。

緊急時のマニュアルや安否確認の準備

また、大地震や大型台風等の緊急時に向けて、自治会独自の行動を予め決めておくために、「緊急時の動きマニュアル」を作成し取り組まれています。

会員さんに対し、声かけ安否確認が必要かどうかアンケートで調べ、災害で被害が発生した場合には、希望されている家庭に各組長が声かけを行えるように準備を整えられておられるそうです。

阪神淡路大震災や西日本豪雨といった大災害のときにも多くの方がご近所さんによって救助されるなど、地域のつながりは大きな力となります。顔の見えるつながりに加え、備蓄品やマニュアルなどの備えがあれば、より地域の皆さんも安心して暮らすことができますね。

▼災害備蓄品の保管箱



▼カセットコンロ・ボンベ等



始めませんか!「^{ごきんじょ}互近助」付き合い



市内には126の自治会があり、それぞれが地域に根付いた様々な活動をされています。お住まいがどの自治会になるか、わからない方はお気軽に市民活動支援課までお尋ねください。以下はメモに使ってくださいね。

あなたのお住まいは…

----- 校区

----- 自治会 です

問合せ先

自治会まめ情報 城陽市の自治会は、小学校区ごとに10の連合会に分かれています！